

# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
 ここに当社第24期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の  
 事業の概況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長

村田 邦彦



## 当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国の金融危機に端を発した世界的な経済の減速により、景気後退色が強まりました。また、急激な円高や資源価格の高騰などにより企業収益が悪化するとともに、所得の伸び悩みや雇用環境の悪化により個人消費が低迷するなど先行き不透明感が増してまいりました。

食品業界及び外食業界におきましても、景気低迷により消費者が生活防衛的な節約志向を強め、極めて厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社)は、食品事業におきまして、ブランド重視の販売戦略の継続と健康志向の高品質商品の開発に取り組んでまいりました。また、昨年7月には営業本部を設置し、全国の営業所と連携を図りながら強力かつきめ細かな営業を推進する体制を整備いたしました。さらに、日清オイリオグループ株式会社との業務提携により、商品の共同開発、食品事業部門における営業協力、通信販売部門における商品の相互提供などシナジー効果を創出いたしました。

レストラン事業におきましては、多彩なメニューの提供と店舗サービスの向上による集客力アップに取り組んでまいりました。また、オペレーションの見直しや経費の効率的運用など合理化を推進してまいりました。しかしながら、消費低迷の影響が予想以上に大きく、店舗体制の再構築など一段の構造改革を実施することにより収益改善を図ることといたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高86億51百万円(前期比3.6%減)、営業利益は1億40百万円(前期比73.9%減)、経常利益は98百万円(前期比79.6%減)となりました。また、来期に実施する店舗閉鎖に伴う固定資産の減損や店舗閉鎖関連費用など4億14百万円の特別損失の計上と繰延税金資産の取崩しなどにより、当期純損失は4億27百万円となりました。

## 今後の見通し

食品業界及び外食業界におきましては、消費者の節約志向と安全志向の高まりから、業態を超えた企業間競争がさらに激化するものと思われ、引き続き厳しい経営環境となることが予想されます。

このような状況のもと、対処すべき課題は、ピエトロのブランド価値向上を図り、お客様の信頼をさらに高めることとあります。そのため、当社グループは、平成22年12月に創業30周年を迎えるにあたり、いま一度、原点に立ち返って、味・サービス・雰囲気総合点でお客様に満足していただけるよう、すべての事業の質を高めてまいります。

食品事業におきましては、引き続きブランド戦略を維持しながら、「おいしさ」と「健康」に加え、「クオリティ」を大事にしたピエトロらしい商品を提供してまいります。

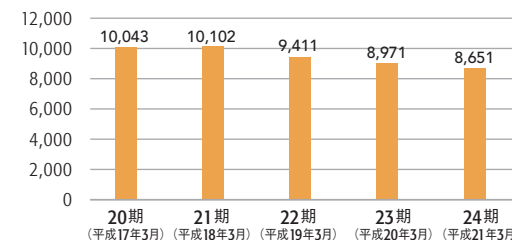
レストラン事業におきましては、「30周年メニュー」や季節の「フェアメニュー」の提案、さらには、レストランにおける新しいライフスタイルのモデル構築など、より楽しくお食事をしていただくための工夫をしてまいります。

製造部門におきましては、原材料を厳選するとともに、製造工程での品質管理を強化し、「安全・安心」で「おいしい」味づくりをしてまいります。

社員一人ひとりが、お客様の満足のため、誠意をもって商品・サービスを提供できるよう、社員教育を徹底してまいります。これらの諸施策を確実に実行し、業績の向上に邁進してまいります。

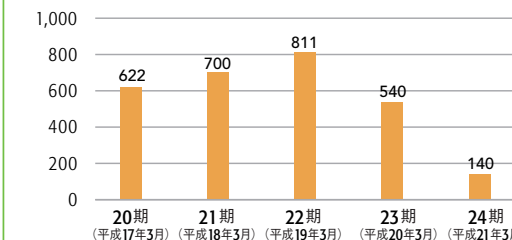
### 売上高

(単位:百万円)



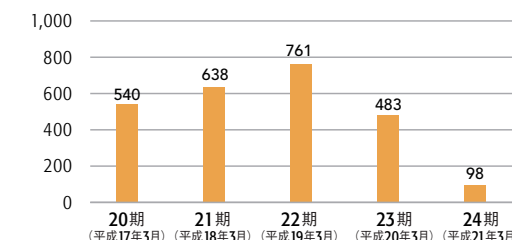
### 営業利益

(単位:百万円)



### 経常利益

(単位:百万円)



### 当期純利益又は当期純損失

(単位:百万円)

